

第88回生体制御学セミナー

周因環境が誘導する 雌性生殖器の形態形成機構

中島 忠章 博士

横浜市立大学理学部理学科 助教

日時：2024年10月31日（木）

14:40～15:40

場所：理一3番教室

横浜市立大学内分泌学研究室は5世代にわたり、性ホルモン・環境ホルモン研究を、特に卵巣と雌性生殖器に焦点を当てて長年行っている (Iguchi et al., 2021)。雌性生殖器である卵管・子宮・膣は、共通の原基であるミュラー管より発生するが、その形態と機能は大きく異なる。成熟後の雌性生殖器が正常に機能するためには性ホルモンが必須となるが、雌性生殖器の発生に性ホルモンは必要ではない。本セミナーでは、*in vivo*のデータをもとに雌性生殖器の発生に関わる因子を探索するトップダウン型の研究のみならず、生命現象の一部を切り出した*in vitro*モデルにおいて仮説を立証するボトムアップ型の研究についても紹介する。またトップダウン型の研究において、近年はトランスクリプトーム解析を元に候補因子を絞り込む手法が一般的であるが、アンバイアスな手法で、どのように中核を担う因子を抽出すべきかについての一案を述べる。

参考文献 Iguchi T, Sato T, Nakajima T, Miyagawa S, Takasugi N. New frontiers of developmental endocrinology opened by researchers connecting irreversible effects of sex hormones on developing organs. *Differentiation*. 118: 4-23, 2021

問い合わせ先：塚原 伸治（内）796168、stsuka@mail.saitama-u.ac.jp